

令和2年度 第1回学校関係者評価委員会議事録

日 時： 令和2年7月30日（木） 14:00～15:30

場 所： 函館短期大学付設調理製菓専門学校学生ホール

参加者： 五十音順

本校PTA会長	小野 浩司 様
本校同窓会長	小林 泰男 様
ラビスタ函館ベイ料理長	酒井 諭 様
フード・コミュニケーション代表	高村 亨 様
竹葉新葉亭常務取締役料理長	正根 嗣典 様（欠席）
本 校：	山本仁志（校長）、 吉田 徹（教頭） 伊藤美樹（教務主任）、 松崎正浩（事務長）

内 容：

1. 開会の挨拶
2. 令和元年度事業活動の自己評価に関する報告について 発表者 山本仁志
3. 令和2年度所属長方針並びに事業計画について
発表者 山本仁志、吉田 徹、伊藤美樹
4. 修学支援新制度について 発表者 松崎正浩

質疑応答と委員からの意見要望を併せて進行する

学生募集と校外実習に関する内容が中心となる

山本 昨年度の学校関係者評価委員会でのご意見にありました、本州方面・首都圏への広報に関してですが、今年度初めて学校パンフレット・資料を200校程に郵送致しました。その後で進路指導部の先生に電話連絡致しましたが、半数位は本校のパンフレットには気づいていない状況でした。3分の1ほどの先生が少し話を聞いてくれましたが、その共通点としては本校がエゾ鹿のジビエやサメなどの特色ある実習をしていること、そして本校が海の幸山の幸に恵まれた道南唯一の食の専門学校であることに反応してくれたことです。

首都圏の高校生は、ほとんどが地元での進学者が多く、北海道・東北に進学する生徒はほとんどいないとのことでした。今回は進路の先生に興味を持ってもらうこと、ジビエなどの実習をしている学校が北海道函館にあるということのを頭の隅に残して置いてもらうことが大きな目的でありました。

現在、事務長が学校の動画を作成しています。昨日、教育課程編成委員会を

実施した際、今の若者にはストーリー性のある動画で訴えましょうとのご意見を頂きました。本校HPの最新のホットニュースとして、本校紹介の20分の動画をアップしています。今後も様々な行事を動画で配信していこうと考えております。

本日配布いたしました新聞記事に関してですが、弘前大学との連携事業として今週の月曜日(7月27日)から青森サーモンのモニター調査を行っている内容です。本校が生食3品、焼き食3品を提供し、弘前大学生協の学生食堂で1品につき学生100名のモニター調査を実施し、定番のメニュー化に向けて集計・分析を進めているところです。生食は函館のマルナマ古清商店さんに2次加工を協力して頂き、焼き食は負担をかけましたが吉田先生一人での対応となりました。令和3年度までの事業ですが、少し夢のある事業に取り組んでおります。

委員 学生募集に関して、中学校の校長会で説明されましたが、その時の反応はいかがでしたか。

山本 昨年度初めて、校長会にて「中学生のための職業体験講座」の紹介をさせて頂き、その内容を校長から各校の教員へ説明して頂きました。その後、担当教員が「この様な対応ができるんですね」と本校に問い合わせがあり、昨年度は利用件数・人数が少し増えたところでもあります。函館市内の中学校の利用はまだ少ないですが、渡島桧山の中学校では2年生の宿泊研修で利用するケースが多くなっております。

委員 函館市内より、渡島桧山の中学校に需要があるのですね。

山本 函館市内ではありませんが、函館近郊の中学校からも問い合わせはあります。

松崎 宿泊研修の一環で行うことが多いので、函館市内の中学校は逆に市外の研修先で学校訪問を実施することになります。

委員 函館に修学旅行で来る中学校にターゲットを定めて、この様な体験学習ができますよという案内をしてはどうでしょうか。その際、ジビエなどの実習を行うと生徒には強い印象を残せるのではないのでしょうか。また、道南だけではなく青森県等も含めて考えてはいかがでしょうか。

山本 今まで青森の高校は訪問していましたが、中学校はありませんでした。

委員 中学校としても修学旅行の時に使えるコマが一つ増えるということで喜んでもらえるのではないのでしょうか。

伊藤 青森であれば弘前大学との連携事業で行ったあおもりカシスを製菓の実習で実施すれば喜んでもらえるかもしれない。中学校の修学旅行なら、青森県は北海道へ、北海道は東北へという流れがあるので、狙い目かもしれませんね。

委員 道東・道北の中学校も、函館に修学旅行ということもあるのでは。修学旅行で函館に来る中学校をターゲットにするのが良いと思います。

伊藤 本校独自として、青森県の中学校にアプローチしてみたいと思います。

委員 私の在学中に、本校の卒業生が帰省した時などに体験談を話してもらったことがありますが、その高校生バージョンではありませんが、在校生が卒業した高校を教員と一緒に訪問し、生の声を高校の後輩に伝える。自分たちの先輩がこの様な内容を学んでいるんだ等、一番身近な人が話すから信頼度も高くなると思います。

伊藤 今なら、先輩からの一言として動画でやることもできますね。

委員 校外実習が10日間となり、指導する方としても指導しやすくなりました。

伊藤 7月の校外実習は、新型コロナウイルスの影響で中止にしましたが、冬12月の校外実習の受け入れはいかがでしょうか。

委員 うちのホテルは問題ありません。

委員 この校外実習はどのような内容で行われており、受入れの職種も色々あるのですか。

伊藤 ホテル、旅館、割烹、レストラン、給食など様々あります。

委員 実習内容は、受入れ側に任されています。何時に来てもらい、何時から何時まではこの仕事を担当してもらおう。ホテルとしての様々な仕事やセクションを10日間で学んでもらいます。

委員 校外実習での10日間は、学生にとっての自信や財産になるんですね。

委員 1年生の最初の校外実習では右も左もわからない状態でやってきて、2回目の冬の実習では自分の進みたい道や目的などを考えるようになります。2年間で4回の実習があるので、自分の選択肢が広がるし、経験を積むことによって自分は何をやりたいのかを見つけていくことができるので、4回というのは大きな意味を持っていると思います。

委員 校外実習の意義を理解してない学生がいたとは、どのようなことですか。

山本 これは2年前の一部の学生に関することですが、校外実習の受入れ先の皆さんは忙しい中を、学生の進路選択のため、適性を見極めるためにとの思いで受入れてくれていることを理解できぬまま参加した学生がいました。これなら10日間でなく、1週間で良いのではないかと言う学生がいたのです。校外実習前にオリエンテーションを実施し、実習の意義や取り組み姿勢などを指導しておりましたが不徹底であったと反省し、昨年度は周知徹底を図り改善しました。

軽い気持ちで参加する学生がいれば、受入れ先にも迷惑をかけますし、主体的に動こうとしなければ何を学びに来ているのかと思われまます。私たちは、どのような仕事をするかは受入れ側にお任せしますが、挨拶や主体性など、このような点を評価してくださいと事前をお願いしております。本人も毎日感想を書きますので、その中で自分自身の適性を見極めていると思います。

伊藤 意識の低い学生は、どうしてもやらされているという考えを持ちやすくなります。学校としては、様々な学びの中で気づきを与え、本当に必要となれば本人が更に主体的に学ぶ姿勢を身に付けるように指導を続けてまいります。

委員 今の学生は、物事の意義を見出すまで時間がかかるのかもしれませんが、最初から意識が高い人ばかりではないので、一つ一つ教えていかなければいけませんね。

山本 主体的に動ける意識の高い学生を育てることが、本校の使命である「食を通じて社会に貢献する人材の育成」に直結することであり、今後も教職員一丸となり努力してまいります。

委員の皆様の見解を今後の教育活動に反映していくとの校長からの感謝の言葉で委員会を終了。